

# 大東文化歴史資料館だより

第29号 2021. 2. 28

## 『大東文化大学百年史』編纂作業の進捗状況について

大東文化大学百年史編纂委員会委員長 中村 宗悦

昨年9月20日に創立97周年を迎えた本学では、3年後の100周年に向けてさまざまな周年事業が企画されています。すでに何度もお知らせしています通り『大東文化大学百年史』の刊行もその一つです。2020年度の前半は突然のコロナ禍の影響もあり、種々作業が滞っていましたが、後半に入り少しずつではありますが着実に準備も進んでまいりました。今回はその内容についてお知らせいたします。

まず『大東文化大学百年史』全体の構成（案）についてです。当初は資料編と本編を分けて刊行する案もありましたが、最終的にはそれらを分けずに上・下2巻で大東文化大学百年の歴史を叙述し、3巻目を補遺とするということになりました。多少の変更はあるかもしれませんが、章立て概要は現状では以下のように固まってきました（今後、加除の可能性あり）。章節の題名はすべて仮ですが、全体の流れは把握できるかと思えます。また読みやすさを勘案して各章の最初に当該章の概説が入る予定です。

### 『大東文化大学百年史』構成案

- 第1章 大東文化協会の設立
  - 第1節 漢学振興運動と衆議院における「漢学振興ニ関スル建議」
  - 第2節 東洋文化学会と大東文化協会創設関係者
  - 第3節 大東文化協会設立へ
- 第2章 大東文化学院の誕生
  - 第1節 大東文化学院の設立申請・認可
  - 第2節 大東文化学院開院式
  - 第3節 大東文化学院紛擾
  - 第4節 大東文化学院の教育研究
  - 第5節 大東文化学院創設十周年
- 第3章 戦争と大東
  - 第1節 池袋校舎への移転と学科課程の拡充発展
  - 第2節 戦時下の学生生活
  - 第3節 池袋校舎罹災と戦時下の学問・教育・図書疎開
- 第4章 学制改革と新制大学の発足
  - 第1節 新制大学・東京文政大学設立案
  - 第2節 池袋校舎への復帰と復興計画
  - 第3節 大東文化大学創立三十周年
- 第5章 大東文化大学の振興
  - 第1節 板橋校舎への移転
  - 第2節 新学部（文学部・経済学部）の創設
  - 第3節 設置校の開校（高校・幼稚園・専門学校）
- 第6章 東松山校舎の開校
  - 第1節 東松山校舎の建設
  - 第2節 学生定員の増員
  - 第3節 学部・学科の増設
  - 第4節 板橋校舎の整備強化

- 第7章 創立六十周年 1980年代の動き
  - 第1節 東松山校舎の再開発事業
  - 第2節 新学部（国際関係学部）の設置
  - 第3節 学生定員の増加と「臨時定員増」の開始
  - 第4節 『中国語大辞典』の編纂
- 第8章 変容を続ける大学
  - 第1節 大学設置基準の大綱化とカリキュラム改革
  - 第2節 学部学科の増設
  - 第3節 キャンパスの総合整備
- 第9章 大東文化大学の現在と未来
  - 第1節 大東医学技術専門学校の廃校、大学院法務研究科（法科大学院）の設置から募集停止まで
  - 第2節 大学のガバナンス問題
  - 第3節 カ・レ・シ（看護学科、歴史文化学科、社会学部社会学科）開講
  - 第4節 DAITO VISION2023の策定

次に刊行スケジュールですが、2022年度内に草稿の完成、入稿。2023年の夏休み前には校正を終え、2023年9月に上巻を刊行する予定です。下巻は翌年の9月刊行を目指します。両巻とも体裁は函入り・クロス製・各600～800ページ程度、制作部数は各500部程度とし、主として関係者への配布、全国主要図書館への寄贈を予定しています。

内容的にはこれまでの大学史編纂事業の成果を踏まえつつ、発足以来、学内外から蒐集した新資料もふんだんに用いた充実した内容を目指しています。とくに新制大学になってからの理事会や評議会、合同教授会など各種会議体の議事録資料などの整理が進んでおり、節目節目に大学としての意思決定がどのようになされてきたのかが明らかにされることでしょう。また大東文化学院時代の関係者に関わるまとまった書簡や日記類も新たに発見されており、学院時代のイメージも大きく塗り変わっていくかもしれません。

各種資料の紹介やそれらに基づく研究成果の発表は、引き続き年1回発行の『大東文化大学史研究紀要』（2021年3月に第5号発行予定）や年2回発行のこの『大東文化歴史資料館だより』でも随時お知らせしてまいります。



\* 資料紹介 \*

「大東文化学院 同窓会報」第三号掲載「入学試験問題」と大東文化学院作製「卒業生分布図」

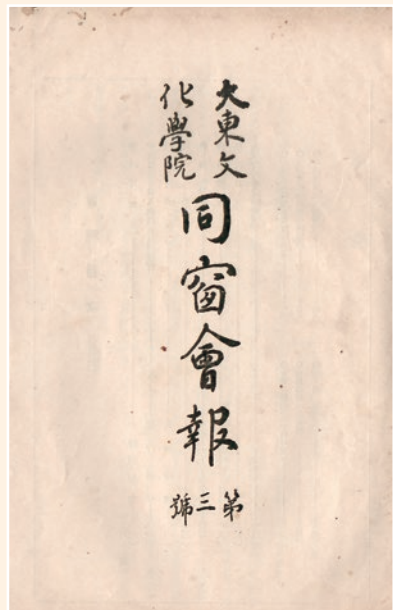
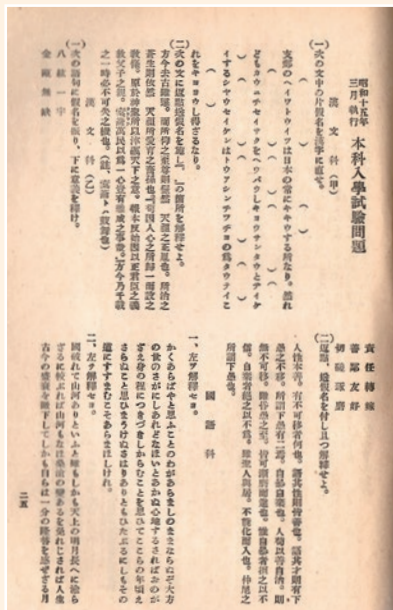
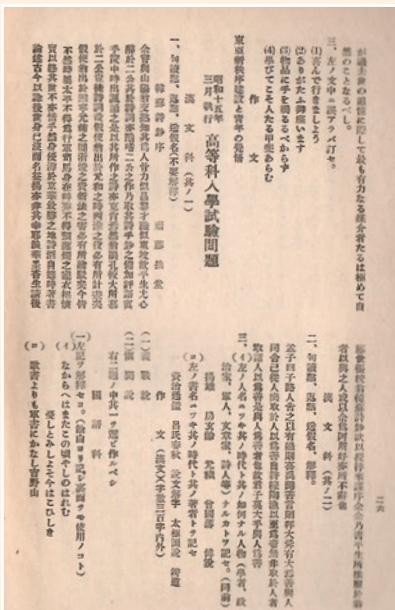
「大東文化学院 同窓会報」第三号は、1940（昭和15）年7月に発行されました。同資料は谷本宗生氏（東洋研究所特任准教授）より寄贈されたものです。谷本氏からは第五号（昭和16年10月発行）及び第十号（昭和18年12月発行）も寄贈されていますが、旧制専門学校時代に発行された「同窓会報」は、現在ほとんど現物を確認できない貴重な資料です。1940（昭和15）年より発行されるようになった「大東文化学院 同窓会報」は、同窓生へ新校舎移転のための寄付金を募る目的で発行されるようになったもので、刊行当初の一号、二号は新聞型（タブロイド版）だったのですが、第三号よりA5版の冊子型となりました。

大東文化学院や大東文化協会は、各種刊行物の発行に特に重きを置いていたため、刊行物や印刷物は多く残されています。定期刊行物だけでも大東文化協会発行の「大東文化」、大東文化学院発行の「大東文化」、「月刊大東文化」、「大東文化学報」などがありましたが、その誌名の多くに「大東文化」が冠されています。それらに加えて発行された本誌は、同窓会費および寄付金の納入依頼の手紙に同封するため作製されたようです。そのかいあってか、翌1941（昭和16）年8月に大東文化学院は創立地である九段校舎に別れを告げ、やや

敷地面積が広く設備が充実した池袋校舎へと無事に移転を遂げることとなりました。

さて、「大東文化学院 同窓会報」第三号には「昭和十五年三月執行 入学試験問題」が掲載されていました。入試問題掲載というのは大東文化発行の他のどの雑誌にも見られなかった試みですが、それを先輩にあたる同窓生たちへ送ったところに現役大東生たちのユーモアの精神も感じます。ちなみに、現在のところ同窓会報の入試問題掲載はこの第三号以外には確認できていません。代わって、第十号には「推薦可能諸学校」一覧が掲載されており、現在でいうところの指定校推薦が行われていたことがわかります。

大東文化学院には本科と高等科がありましたが、双方ともに入試問題は漢文、国語、作文でした。ただし、高等科の入試は漢文問題に重きを置いており、漢文の問題数がやや多いと同時に、作文試験問題は漢文で著述するように指示書きがあります。「義戦説」「慎独説」のいずれかについて300文字程度の漢文で作文をなさい、という問題です。一方の本科試験で出された作文問題は「東重新秩序建設と青年の覚悟」について書きなさいというもので、ともに時代の趨勢が現れた入試問題でした。







同時代の資料、「大東文化学院卒業生分布図」をあわせて紹介いたします。資料のなかほどに、「1939（昭和14）年2月現在」と記載されています。宮瀧交二氏（歴史文化学科教授）より寄贈いただいた貴重な資料です。A3判の油紙（ワックスシート）に印字して作られたもので、左下には「大東文化学院作製」と記されていますが、こういった目的で作られたものかなど詳細はわかりません。それまでも卒業生たちの就職先などは大東文化学院発行の雑誌等に

随時掲載され近況報告はなされていましたが、この分布図と同様のものは他には確認されておらず、前後の時代にも作られていないと思われる。最初で最後の1枚だったのではないのでしょうか。

同分布図が作製された昭和13年度より大東文化学院は「三部制」となり、3つの専攻を持つ少し大きな学校へと変化していました。それまで1学年50～60名程度だった極小規模の漢学専門学校であったのが、1学年の定員150～180人へと拡大、A3程度の紙には収まらない数の卒業生を輩出するようになります。

創設から15年ほど経て、大東文化学院は新たな展開を迎えようとしていました。こうした時代背景から推察すると、初期大東文化学院を卒業した人々の名前をここで一度残しておきたいと考えたものだったのかもしれない。

（大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）

### <資料寄贈ご協力のお願い>

大東アーカイブスでは、引き続き本学関係資料のご寄贈をお願いしております。学園沿革史に関わる資料がございましたら大東文化歴史資料館事務室までご連絡いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## \* 大東アーカイブスの動き \*

### 大橋二郎先生（スポーツ科学科教授）より 大東スポーツ関係のデータが移管されました

このたび、スポーツ・健康科学部スポーツ科学科教授の大橋二郎先生より、大東スポーツに関係する動画及び画像をまとめてご提供いただき、大東アーカイブスで保管することとなりました。大橋先生が本学に着任されて以降、長年にわたりご自身で撮影したり保有されたりしてきた映像と画像で、その総データ容量はおおよそ6TBもあります。

大東アーカイブスへの提供経緯については、大橋先生自ら今年1月12日に行われたスポーツ・健康科学部教授会において説明していただき、同学部教授会より承認されて移管されることとなったものです。

今回移管されたデータは、イベントごとに年月日と内容を示す短文でフォルダーごとに整理してあり、その内容としては主として1990年から2020年までの大東運動部の活躍をおさめたもののほか、大橋先生の授業記録も多数ありました。大橋先生が着任される以前に撮られたと見られる1980年代半ばのものも一部に含まれています。1991年より順次カリキュラム改革が行われていった大綱化政策以前の、旧保健体育の授業の記録も残されており、そのなかに



は学生たちの生き生きとした表情を見ることができます。また、スポーツ・健康科学部発足以来の、主としてスポーツ科学科で行われてきた15年間にわたるイベントの様子などの詳細を確認することもできるなど、今後、大東文化大学スポーツ史・学生史を伝えていくための貴重な資料となりそうです。

## 『大東文化大学史研究紀要』の刊行と大東文化大学史研究会の開催状況について

大東文化大学百年史編纂委員会副委員長 谷本宗生  
大東文化大学史研究紀要編集委員会副委員長

『大東文化大学史研究紀要』第5号(2021年3月刊行予定)は、もっか編集作業中です。同号では、論文2本、資料紹介1本、本学卒業生による在学中の思い出エッセイ1本を掲載予定です。研究紀要に掲載される論文が少しずつ増えていること、そして本学卒業生からの投稿もみられることなど、本学創立100周年へ向けて大変うれしく思います。そこで本稿では、私たちがこれまで手がけて来ました研究紀要の創刊号(2017年3月)から第4号(2020年3月)の刊行と、それに前後するかたちで活発に意見交換を重ねた大東文化大学史研究会の第1回(2018年4月)から第3回(2019年7月)の開催状況について、少し整理し振り返っておきましょう。

研究紀要の創刊号では、中村宗悦百年史編纂委員会委員長が「創刊の辞」において、「本学の発展と日本の近現代史との関連を明かにする」研究を企図し、「社会に開かれた研究の場になると同時に百周年後も継続的な成果発表をおこなっていく」前提で、投稿資格をとくに問わない公募のかたちで、本大学史研究紀要(年1回)を刊行すると宣言しています。同号には、研究ノート2本、資料紹介2本、本学職員による事業報告1本を掲載しています。とくに研究ノートでは、宮瀧交二百年史編纂委員が九段草創期の日本史教育の実態を実証的に明らかにしようと試みました。

紀要第2号(2018年3月)には、研究ノート2本、資料紹介1本、本学職員による本学園との繋がりを示す随想1本を掲載しました。とくに研究ノートでは、荒井明夫紀要編集委員長が明治初期の日本の専門学校成立史を、序説として先行研究の知見や関係法規をもとに整理を試みしています。続いて谷本が、本学の変遷や時代の息吹を感じる『大東文化』新聞(1966～1973年度)の掲載記事から、大学後援会や大学父兄会の設立、東松山校舎の開校及び教養課程委員会の整備、外国語学部及び法学部の設立、本学創立50周年などの主要事項を取り上げ検討しています。

紀要第3号(2019年3月)には、研究ノート2本、資料紹介1本、本学院卒業生のインタビュー1本を掲載しました。このなかでも、本学院15期卒業生の野田泉さんからうかがった体験談は、当時の学院生活を示す貴重な証言記録と位置付けられます。続く紀要第4号では、論文1本、研究ノート1本、資料紹介1本、本学卒業生による本学院生の学生帽を探るエッセイ1本を掲載しました。

本大学史研究をより深めていくことを目的とした大東文化大学史研究会も行われました。第1回研究会(2018年4月)では、研究報告は紀要2号に掲載された内容に基づいて、荒井報告、谷本報告、宮瀧報告の計3本がなされました。フロアの参加聴講者からは、たとえば荒井報告で示された近代日本への導入された専門学校モデルは、西欧のどの国の学校制度を模倣したのであったのか?といった核心をつく質問なども挙がり、企画趣旨の成果を十分に得た思いがいたしました。第2回研究会(2018年10月)では、中村及び谷本の報告が行われました。フロアとの質疑応答で、戦前・戦時下の本学院出身のアジアでの活躍についてどのように評価し得るかといった点も挙がり、活発な意見交換となりました。続く第3回研究会(2019年7月)では、谷本、宮瀧、石井の報告が行われ、報告者らは研究会での質疑応答も踏まえ、自身の研究をより深めて研究紀要への投稿を目指していくとしました。いまだコロナ禍のなかではありますが、次回の第4回研究会につきましても、紀要5号の刊行を受けて2021年度中には、ぜひとも大東文化会館にて開催を試みたいと考えています。

本学創立100周年に向けた百年史の編纂にあたり、研究紀要の継続した刊行と大学史研究会の定期的な開催は、まさに円滑な進捗をはかるための両輪というべき役割でしょう。情報の詳細につきましては、「継往開来」(百年史編纂サイト)や大東文化大学機関リポジトリなどをご覧ください。

## 『大東文化大学史研究紀要』第6号 原稿募集

大東文化歴史資料館(大東アーカイブス)では、引き続き原稿を募集いたします。令和3年度の投稿締切りは令和3年12月中旬を予定しております。投稿を希望される方は、氏名・ご所属のほか、原稿(論文その他)種別、予定されるタイトル及び文字数を令和3年10月末日までにこちらのメールアドレスへお知らせください。エントリー(投稿)・お問い合わせ: [archives@ic.daito.ac.jp](mailto:archives@ic.daito.ac.jp)  
「投稿規程」についてはホームページ「継往開来」(<https://www.daito.ac.jp/100th/bulletin/>)でも公開しております。

## 【大東アーカイブス活動記録】(2020年4月～2020年9月)

- |      |                                     |      |  |
|------|-------------------------------------|------|--|
| 4.7  | 私立大学研究ブランディング事業撮影資料返却運搬             | 8.6  | 百年史編纂委員会会議(メール会議)開催                                  |
| 4.8  | 緊急事態宣言によるキャンパス入構制限にともない、企画展示室閉室     | 8.13 | 歴史資料館運営委員会会議(メール会議)開催                                |
| 6.4  | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会議(リモート会議)参加      | 8.20 | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会議(リモート会議)参加                       |
| 6.8  | WG会議                                | 9.25 | WG会議   |
| 6.25 | 私立大学研究ブランディング事業デジタルアーカイブスサイト構築説明会参加 | 9.30 | ニューズレター「大東文化歴史資料館だより」vol.28発行<br>百年史編纂委員会会議(メール会議)開催 |

大東文化歴史資料館だより

第29号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.29

発行: 2021年2月28日

編集発行: 大東文化歴史資料館

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL 03 (5399) 7646 / FAX 03 (5399) 7647

URL: <http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html>